

学校事例

福岡県立香住丘高校

かすみがおか

CAN-DO 評価を取り入れた

観点別シラバスを作成し

授業を改善する

学校全体で

観点別シラバスを作成

福岡県立香住丘高校には、普通科（一般コース、数理コミュニケーションコース）・英語科が設置されている。同校では、2003年度のSELHI研究指定以来、主に英語科で英語のCAN-DOリストの開発・研究を続けてきたが、13年度の新課程施行に当たり、「英語を英語で」の授業実践のために普通科の授業改善を行い、教科書をベースとした「観点別シラバス」と、生徒自身が学習状況を客観的に把握する「CAN-DOチェックリスト」の開発を行った。本年度、同校は英語だけではなく、

全教科で観点別シラバスの作成を実施した。英語では、従来実施していたCAN-DO評価と、観点別評価を組み合わせるようになったが、その作業を通して感じた意義を英語科主任の永末温子先生は振り返る。「以前より実施してきたCAN-DO評価と、観点別評価といった異なるタイプの評価を組み合わせることで、どのレッスンのこういった活動でそれぞれの観点を評価するかが明確になりました。CAN-DO評価は、主に『技能』『知識・理解』の評価が中心でしたが、『関心・意欲・態度』などを含め、4観点をバランス良く評価できる授業に改善していく必要もありました」



福岡県立香住丘高校 永末温子
ながすえ・はるこ
英語教科主任。SSH推進課副課長。教職歴33年。赴任歴16年目。

福岡県立香住丘高校

- ◎1985年福岡県内の公立高校として最初に英語コースが設置（1994年英語科に改組）されて以来、先進的な英語教育とカリキュラム開発に取り組み。2003年度にSELHI研究指定、2011年度にSSH研究指定。
- ◎全日制／普通科（一般コースと数理コミュニケーションコース、英語科／共学
- ◎1学年約400人
- ◎2013年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、筑波大、東京外国語大、九州大などに191人が合格。私立大は、東京理科大学、同志社大、西南学院大、福岡大などに延べ741人が合格。

香住丘高校では全教科の観点別シラバスが前年度末には完成し、全教職員・全校生徒に配布され、年度当初からの授業で活用されている。「新課程全面实施年度にどの教師が教壇に立ったとしても理解できる観点別シラバスを作る必要があります。しかし、シラバスは生徒も活用するものなので、どのような学習目標を設定され、どのように評価がなされるかを十分に説明できるものでなければなりません。教科内では『この教材を使ってどうだったか』

観点別評価を基に
授業を見直す

『生徒の理解に合った教え方が出来ていたか』などと、それまでの指導を振り返りながら議論を重ね、観点別シラバスとそれに沿った年間学習指導計画を策定する作業が続きました（永末先生）

英語科では、共同研究者である東海大准教授の長沼君主先生の助言を得て永末先生が開発した「コミュニケーション英語Ⅰ」のシラバスをモデルとして、英語科の他の科目のシラバス作成も行われた。（P.32図1）。

同校の英語におけるCAN-DO評価を加えた新しい観点別シラバスでは、生徒の学習到達度を「何が出来るか」のCAN-DO形式で評価するための記述がなされた。それまでの「英文を1分間に○語読める」などのスキルを重視した能力記述の他に、「本文の流れを理解して命題となる質問に答え、さらに背景的知識も理解し、英語で答えることができる」といった、教科書ベースの授業を基本に英語で英語を理解して表現する能力を評価する記述が多く加え

られた。また、生徒が出来るようになるプロセスを認めていく姿勢も、これまで同様に重視されている。

「出来るか、出来ないか」だけでなく、『出来る』ことを評価することは、『英語を英語で』教えるようになった新課程では、特に重要です。生徒は授業で『出来るようになりつつある実感』を持つことで、『やれば出来る』という自己効力を高め、積極的にコミュニケーション活動を行おうとします。『出来つつある』ことを感じさせるように活動を設計することで、次の学習へと生徒の自律的な学習態度を醸成していきます」（永末先生）

更に英語では、生徒が学習目標の達成度を自己評価できる「CAN-DO チェックリスト」も作成している(図2)。観点別シラバスを通して「読む・書く・聞く・話す」の4技能を整理し、学習の到達度と必要度を4段階で自己評価させる。チェックリストは、生徒にとっては自身の学習を内省し、教師にとっては生徒からのフィードバックを受けて、自分の授業を振り返ることが出来る「生徒と教師が共有する道具」となる。

「シラバス、チェックリストを教科内で共有することで、新課程においても、全ての教師が同じ立場、同じ目線で生徒に接することが可能になりました」（永末先生）

新課程では 教師も学び合う学習者

「英語を英語で」教える授業のスタート、「観点別シラバス」や「CAN-DO チェックリスト」の作成など、英語教育の大きな変化の中で、永末先生は「教師の同僚性」の重要性を感じている。

「『英語を英語で』教える授業については、ベテランも若手もスタートラインは同じです。だからこそ、教材研究の成果や各クラスでの活動の様子は、これまで以上に共有されています。実際、『英語を英語で』教えるようになって、より周到な教材研究を行っています。例えば、教科書の内容を深く理解できるように発問と、それに対して予想される生徒の答えを書き出した発問シナリオを作成するのですが、教科書1パートに対してシナリオが5〜6ページ以上になることも珍しくありません。

図1 「観点別シラバス」 サンプル (コミュニケーション英語I)

月	単元	学習内容	学習目標と評価の観点
前期	高校英語入門	高校での英語学習準備 (春休み課題)	前期中間考査までの学習の目標・評価の観点
4月	LANDMARK Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us?	授業での学習のポイント ①音読 意味の区切りで読む。 (チャンクリーディング・リーディングルックアップ・シャドーイング) ②テキスト理解 「英語」を「英語」で理解する。	① コミュニケーションへの関心・意欲・態度 <input type="checkbox"/> 科学に関する紹介文や説明文を読んで、情報や考えを積極的に理解しようとする。 <input type="checkbox"/> 科学に関する紹介文や説明文を読んだ後で、意見を積極的に交換しようとする。 ② 外国語表現の能力 <input type="checkbox"/> 単語の正しい強勢、文の正しいイントネーションを理解し、教科書を音読することができる。(L1, L5) <input type="checkbox"/> 英語で自己紹介文を書き、自己紹介スピーチを行うことができる。(L1) <input type="checkbox"/> グラフィックオーガナイザーに図示された情報をもとに、テキストの全体的な流れを理解し、口頭で説明できる。(L1) <input type="checkbox"/> グラフィックオーガナイザーに図示された情報をもとに、テキストの全体的な流れとパートごとの内容の関係を理解し、口頭で説明できる。(L5) <input type="checkbox"/> 教科書の本文を読んだ後で、その内容について意見交換することができる。(L5) <input type="checkbox"/> 教科書本文をパートごと読んだ後で、要約の穴埋めをすることができる。(L1, L5)
5月	LANDMARK Lesson 5 Biodiesel Adventure	③技能統合活動 読んだり、聞いたりした内容を話したり、書いたりする活動につなげていく。教科書の英文の内容を基本に発展的な自己表現活動を行う。 ④速読演習 英文を速く正確に、英語で理解するスキル演習を行う。	③ 外国語理解の能力 <input type="checkbox"/> 教科書本文を読んで、本文の流れを理解して命題となる質問に英語で答えることができる。(L1, L5) <input type="checkbox"/> クラスメートが行う自己紹介の内容を理解することができる。(L1) <input type="checkbox"/> 意見交換において、クラスメートの意見を理解することができる。(L5) <input type="checkbox"/> 教科書本文に関連した英文を読み、パラグラフの中の文と文のつながりを理解し、全体の流れもある程度理解できる。
6月	前期中間考査 Lesson 4	⑤補充リーディング 教科書の本文の内容に関連する英文読解を行う。	

* Copyright©2013 Naoyuki Naganuma (n.naganuma@tokai-u.jp) & Haruko Nagasue (HarukoNagasue@aol.com)
* 英語での年間指導計画と単元計画への CAN-DO リストの反映例については、『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』(文部科学省初等中等教育局)も参照のこと。
(http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm)

生徒の発話を引き出すような発問を工夫する一方、教材の内容理解を深め、考えさせたい発問をシナリオ化します。また、授業を振り返り、生徒の反応を基に次のシナリオ作りに生かしていきます。発問シナリオは、私がモデルを先行的に作成した

生徒の発話を引き出すような発問を工夫する一方、教材の内容理解を深め、考えさせたい発問をシナリオ化します。また、授業を振り返り、生徒の反応を基に次のシナリオ作りに生かしていきます。発問シナリオは、私がモデルを先行的に作成した

後は、教科内でレッスンごとに担当教員を決めて作成し、学び合う環境が出来ています」

13年度に1年生が受験した7月と11月の模試の成績を比較すると、同校の英語の成績は上昇し、しかも、クラス間の成績差は非常に小さい。

図1「観点別シラバス」サンプルの完全版は、次の URL よりダウンロード可能です。
http://berd.benesse.jp/berd/center/open/kou/dwdata/201402/shinkatei_1.pdf

加えて、上位層の人数は過去3年間
で一番多いという。

**内容を深く、自発的に
理解する生徒たち**

観点別評価を踏まえて授業設計を
変えたことで、普通科の授業の様子
は随分変わったと永末先生は話す。

「屋久島のエコツアーを扱った単
元では、本文の背景的知識を理解さ
せるための教材研究を行い、発問シ
ナリオを作成しました。生物の先生
から内容の深め方や生徒の理解度
についてアドバイスを受け、実際の
授業では、屋久島の地理的特徴や降
雨量などの教科書の内容にとどまら
ず、生物の垂直分布にも触れ、生徒
の科学的探究心を高めるようにしま
した。同時に、得た情報を使って地
域比較を行う活動で、分数や倍数表
現に親しみむなど、言語に対する知識・
理解も深まりました」

教科書を軸にしながらも、時には
教科書のレベルを超えた内容を学ん
でいったが、内容が教科書で扱われ
ているテーマと密接に結び付いてい
るため、生徒は一貫して興味を持っ
て学ぶことができ、高いレベルの学

習内容でも意欲的に理解していこう
としていたと永末先生は説明する。
『英語を英語で』の授業に慣れるに
つれて、教師の英語での指示や説明
への理解度は格段

に高まり、要約や
意見発表等のアウ
トプット活動に積
極的に取り組んで
います。動画投稿
サイトなどでテー
マに関連する動画
を見たり、参考文
献を読んだりと、
自発的に学習に取
り組む生徒が増え
ました。『英語で他
教科の内容を学ぶ』
授業展開が、言語
学習そのものの意
欲を高めることに
つながっていると
感じます」

**観点別評価と
CAN-DO 評価**

よって包括的に評
価できるだけでなく、実現可能な到

達度の学習目標を設定し、実際に生
徒が目標を達成できるような授業を
同校は展開している。「誰のために
評価するのか」を見据えて、評価で

きる授業設計を行い、評価結果から
授業を柔軟に改善することが、新課
程ではどの教科にも求められている
と言えるだろう。

図2 「CAN-DO チェックリスト」 サンプル (1年普通科(数理コミュニケーションコース))

Self-Assessment Checklist		GRADE 1 【1年前期】	
Can-Do できる度 チェック	4: I can do this easily. (余裕を持ってできる) 3: I can do this under normal circumstances. (通常であればできる) 2: I can do this with difficulty. (難しいけれどもできる) 1: I cannot do this. (難しくできない)		
Needs やりたい度 チェック	4: I can do this, but I want to do this more. (できるけど、もっとやりたい) 3: I can do this, so I don't want to do this. (できるから、やらなくてよい) 2: I can't do this, but I don't want to do this. (できないけど、やりたくない) 1: I cannot do this, so I want to do this. (できないから、やりたい)		
外国語表現の能力		Can-Do	Needs
SPEAKING		1~4	1~4
S11 コミュ1 R11L11技能統合 S21基礎	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、本文の流れを理解して命題となる質問に英語で答え、さらに背景的事実も理解して英語で答えることができる。		
S12 発表I W11L12技能統合	80語程度の簡単な表現で書いた自己紹介スピーチを1分程度行うことができ、スピーチの内容に関する簡単な質問に答えることができる。		
S13 発表I	会話において、自分のこと(興味・趣味・好きなこと・嫌いなこと・まわりの出来事・学校生活)や自分の家族のことを簡単な表現でやりとりすることができる。		
S14 コミュ1 W12技能統合	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、血液型と人のパーソナリティーの関係等、そのレッスンのテーマに対する自分の意見を明確にして、その理由や具体例を示しながら述べるができる。		
S15 コミュ1 W13技能統合 S25共通	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、Graphic Summary Chartに図示された情報をもとに、テキストの全体的な流れとパートごとの関係を理解し、口頭で説明することができる。		
WRITING			
W11 発表I S12技能統合	1分程度の自己紹介を行うために80語程度のスピーチを簡単な表現で書くことができる。		
W12 コミュ1 S14技能統合	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、血液型と人のパーソナリティーの関係等、そのレッスンのテーマに対する自分の意見を明確にして、その理由や具体例を示す英文を80語程度で書くことができる。		
W13 コミュ1 S15技能統合 W23共通	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、Graphic Summary Chartに図示された情報をもとに、テキストの全体的な流れとパートごとの関係を説明する英文を書くことができる。		
W14 コミュ1	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、本文の内容を踏まえながら自分が実行したいEco-Friendly活動について、具体例を示しながら80語程度の英文を書くことができる。		
W15 コミュ1 W25基礎	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を読んだ後に、本文の内容を踏まえながら、危険性に関する現状と危険性軽減を教えるための自分の意見を表す150語程度の英文を書くことができる。		
外国語理解の能力		Can-Do	Needs
READING		1~4	1~4
コミュ1	コミュニケーション英語Iの教科書LANDMARK English Communication Iの英文を速読時に読み		

* Copyright©2013 Naoyuki Naganuma (n.naganuma@tokai-u.jp) & Haruko Nagasue (HarukoNagasue@aol.com)

図2 「CAN-DO チェックリスト」 サンプルの完全版は、次の URL よりダウンロード可能です。
http://berd.benesse.jp/berd/center/open/kou/dwdata/201402/shinkatei_2.pdf